

石川県生協連だより

第108号

石川県生活協同組合連合会
 〒920-0362 金沢市古府2-189
 コープいしかわ古府センター2F
 TEL.076-259-5962 FAX.076-259-5963
 http://ishikenren.jp

発行日/2023年7月25日
 発行責任者/大谷 学



採決の様子



総会の開催にあたり挨拶する長谷川会長理事

石川県生協連 第58回 通常総会

●開催日時 2023年6月19日(月) 13時30分～14時45分
 ●開催場所 石川県地場産業振興センター本館 第7研修室
 ●代議員出席 代議員定数32名、出席代議員数31名(実出席17名、書面議決14名)

第58回通常総会は4年ぶりに代議員の実出席を基本とした通常の総会運営で実施しました。

浅田晋一専務理事より第1号議案から第4号議案まで提案され、全議案が可決承認されました。議案審議では5名の代議員から発言があり、議案が深まりました。

なお任期満了による役員改選で、長年、生協連の会長理事としてご尽力頂いた長谷川隆史氏、理事の檜原弘樹氏、監事の吉本輝芳氏が退任されました。新たに吉本輝芳氏、中川敦士氏が理事に、濱上康弘氏が監事に就任されました。

当日は来賓として石川県生活環境部生活安全課長 嵐登志男氏、石川県労働者福祉協議会専務理事 渡邊雅人氏、日本生協連関西地連事務局長村上毅氏の3名の方にご出席いただき、総会の盛会を祝しご挨拶いただきました。

総会後の第1回理事会で次の通り代表理事及び役員体制を確認しました。

新会長理事紹介



氏名：大谷 学
 入協年：1984年
 所属生協：生活協同組合 コープいしかわ
 趣味：読書、街歩き
 血液型：B型

石川県生協連は、長谷川前会長をはじめ、先人の皆様のたゆまぬ努力により、58回目の総会を無事終えることができました。皆様から託されたバトンをしっかりと受け止め、次世代にバトンを渡せるように微力ですが精一杯努力していきます。

コロナ禍で社会の分断や格差が広がり、ウクライナでは今日も尊い命が失われています。暮らしが大きく変わろうとしている今、会員生協間のつながりを育み、組合員の暮らしに寄り添っていくことが、何より求められていると思います。会員生協の皆様と一緒に歩んでいきます。よろしくお願いたします。

《2023年度役員体制》

代表理事会長理事 大谷 学
 副会長理事 吉本 輝芳
 代表理事専務理事 浅田 晋一

特集 会員生協総(代)会

県内会員生協の総(代)会が5月、6月に開催されました。
総会運営を通常に戻して開催した生協が多く見られました。

* 石川県勤労者共済生協総代会は7月28日開催

石川工業高等専門学校生協
第21回総代会
2023年5月23日(火)
石川高専生協食堂ホール



理事長による議案提案の様子

115名の総代中、本人出席5名、委任出席0名、書面議決による出席は79名にて成立しております。コロナによる新型コロナウイルスの影響はほぼなく、昨



年度まではテーブルに飛沫感染防止用のアクリル板を設置しての実施でしたが、今年は外した形で行うことができました。ただ基本的には書面議決による出席を今年も主としており、混乱もなくすみやかに終了となりました。

今年の総代会は石川高専生協の「中期計画の策定」が主な議案となりました。自生協の3年〜5年間で目指すべき方向性を提示させて頂いた議案内容となり、無事承認されました。今後はこの中期計画を柱とし、生協活動を進めていきたいと思っております。

(石川高専生協 谷口 修)

金沢大学生協

2023年総代会

2023年5月25日(木)
角間キャンパス北福利食堂

今年度は、4年ぶりに書面議決書中心の方式ではなく、従来の形式で開催し、当日は会場に42名の総代の方に出席していただきました。また、総代会に合わせて総代試食会も行われ、5月から自然研食堂で提供開始となった無人調理ロボットによるパスタも提供されました。

開会に際しては、来賓として金沢大学教育担当理事の森本先生からご挨拶を頂戴しました。その後、下川理事長の挨拶、理事会からの議案提案が行われました。提案された議案について、総代4名の方から発言があり、理事会からの回答がありました。

その後、議案に対する採決が行われ、また役員選挙立候補者(理事26名、監事5名)の無投票当選が確認されました。

2023年度は以下の6つの方針のもと、活動を進めていきます。

① 食堂・喫茶、購買等の利用環境やサービスの改善、向上を積極的に推進します。

② 学生組合員の生活支援に取り組みます。

③ 経営構造を強化します。

④ 生協・共済加入の促進と組合員参加の取り組みを進めます。

⑤ 大学との関係強化を図ります。

⑥ 持続可能な社会づくりに貢献します。

(金沢大学生協 井上美紗子)

大学生協事業連合
第5回通常総会
2023年5月27日(土)
大学生協杉並会館地階会議室

代議員総数191名、本人出席18名、書面による170名、計188名。

会員規約一部変更、役員選任など、全5議案が可決され無事に終了しました。

発言通告に基づく代議員からの発言は4件、オンライン傍聴者からの発言は5件、合計9件の発言があり、議案を深めることができました。

2023年度代表理事及び役員体制
理事長・代表理事

井内 善臣(兵庫県立大学名誉教授)
専務理事・代表理事
樽井美樹子(員外)

常務理事
野尻 郁智(関西西北陸地区業務統括)

他7名(以下略)
(大学生協事業連合 長島 安永)

コープいしかわ

第24回通常総代会

2023年6月14日(水)

石川県地場産業振興センター

書面議決を含む362名が出席し全議案の可決承認をもって終了しました。新型コロナウイルス感染拡大以降、総代と職員員の安全を最優先とし大幅に規模を縮小して開催してきましたが、今年度は4年ぶりに総代に対し前向きな会場参加を呼びかけました。会場参加をした総代からは、「多くの人が生協の活動を良くしたいということが分かった」と「コロナ禍の中薄れていた生協とのつながりを感じられ安心した」と議案の提案も丁寧で分かりやすくしつかりと頭に入ってきた」などの声が寄せられました。

これから組合員の声を出発点に一人ひとりの意見が大切にされる総代会をすすめていきます。



採決の様子

(コープいしかわ 東野 良晴)

金沢医療生協

第32回通常総代会

2023年6月18日(日)

石川県青少年総合研修センター

今年も規模を縮小しての開催となりました。総代は100名中99名(本人出席28名、書面議決71名)でした。第1号議案から第4号議案が提案され、すべての議案が賛成多数で可決されました。各支部からは、1年間のコロナ禍での工夫した取り組み、訪問活動、アンケートによる組合員の声を直接聞く取り組みなど報告されました。また、つながらず恒例企画を継続しながら、2023年度はもつと思いきった活動に取り組みたいなどの発言もありました。最後に、アピール「軍拡・増税ではなく平和外交を。保険証の廃止は中止を」を確認しました。



(金沢医療生協 専務理事 柴原ひろみ)

石川県学校生協

第75回通常総代会

2023年6月20日(火)

金沢市ものづくり会館

昨年と違い会場は、新型コロナウイルス感染防止のための規制を緩め、検温はおこなわず、また、マスク着用については個人の判断としました。開催時間も短縮しない通常どおりの議事運営とし、総代定数127名中、95名の出席(実出席36名、書面議決59名)で行われました。開会にあたり、細野理事長の挨拶の後、中多専務理事より第1号議案から第4号議案まで提案し、全議案可決承認されました。

なお、これまでご尽力いただいた理事長の細野祐治氏が退任し、新たに船塚俊克氏が理事長に選任されました。



(学校生協 専務理事 中多 晃)

コープ北陸事業連合

第27回通常総会

2023年6月23日(金)

ホテル金沢

今年度の通常総会は4年ぶりの実開催となり、代議員定数35名に対し35名(実出席35名)の代議員の出席で行いました。大谷学理事長の挨拶の後、農林水産省 北陸農政局局長 川合規史様、日本生活協同組合連合会 関西支店 西地連事務局長 村上毅様より、ご挨拶をいただきました。第1号議案から第5号議案までを提案し全議案可決決定しました。



総会終了後の第1回理事会において、代表理事2名の選定と役付理事を互選しました。

代表理事ならびに役員体制は以下の通りです。

(非常勤) 代表理事専務理事	大谷 学
(非常勤) 副理事長	小泉 謙二
(非常勤) 副理事長	松宮 幹雄
(常勤) 代表理事専務理事	中川 敦士
(常勤) 常務理事	堀口 亮一

(コープ北陸 森田 満)

令和5年奥能登地震

令和5年5月5日(金)、午後2時42分、能登地方を震源とする大きな地震が発生し、珠洲市で震度6強を記録しました。珠洲市では昨年6月にも震度6弱の地震が発生しています。

今回、地域防災・減災がご専門の北陸学院大学教授 田中純一氏に、奥能登地震の現地の状況について報告いただき、災害で命を救う日頃からの備えについて教えていただきました。

田中教授は、災害時、現地を訪問され住民の声を聴き、被災地に寄り添った支援活動をされており、地域に根差した活動を進める生協にも期待が寄せられています。



北陸学院大学教授
田中 純一氏

◆令和5年奥能登地震の経過

今年5月5日、珠洲市を6強の地震が襲った。超高齢社会を襲った今回の自然災害は、他人ごとでできない課題を私たちに突き付けている。もっとも住宅被害が大きかった同市正院町には635世帯1413人が居住している。高齢化率は50%を超え、全世帯の4分の1強が高齢単身世帯であ

る。今回の地震による建物被害は全壊36棟、半壊256棟、準半壊・一部損壊1096棟に及ぶ(6月26日時点)。罹災申請がまだの世帯があることから、被害実数は変動する可能性があるものの、気になるのは4分の3を占める準半壊・一部損壊世帯が被災者生活再建支援法による支給金給付の対象外であり、国からの支援がないという重い現実だ。こうした事態を受け、珠洲市は準半壊世帯に25万円、一部損壊世帯に10万円を給付する独自支援策を打ち出した。住宅再建にはお世辞にも十分といえない額だが、給付対象外の住民に寄り添った珠洲市の独自支援は評価してよい。

住民は数年にわたり度重なる揺れの不安の中で生活を送っている。令和3年に70回、令和4年に195回。特に令和4年6月には、正院町で震度6弱を観測。73棟の住宅が一部損壊の被害を受けている。こうした中、住民個々の地震対策は進んでいると思いきや、家が大きく改修コストが膨らむことや後継ぎのいない家屋に費用をかけることへの消極性といった理由に加え「6弱があつたので、これ以上大きな地震はないと思っただけ」といった声もあり、災害対策は一筋縄にはいかない現実がある。



県外の小学校から寄せられた温かいメッセージ

◆災害で命を救う日頃からの備え

今回の地震はいくつかの教訓を私たちに投げかけている。紙面の都合上ここでは2点述べておきたい。

1つ目は揺れへの備えである。

河川氾濫の場合は前もって適切な

タイミングで安全な場所に避難すれば命は助かる。しかし、地震の場合時間的猶予はない。ドン！ときてから対応することになる。大きな揺れに見舞われれば、日頃から心構えをしていても、ほとんどの人は身動きが取れない。となれば、大切なことは、揺れでケガをしない対策だ。家具類の転倒・落下・移動を防ぐ対策は、面倒だからとつい後回ししがちだが、ケガをしたり逃げ遅れを防ぐために大切な手立てだ。



自分でやらない限り、誰もやってくれない。より大切なのは住宅の耐震補強の確認と必要に応じた改修工事だ。いくら家具を固定しても、住宅が損壊しては意味がないし、損壊の程度が小さければ、その後の生活再建も早い。地震保険も大切な備えだ。被災者生活再建支援法による支援が限定的なことは先に述べたとお

りだ。公的支援のみに頼っている住宅再建は進まない。

2つ目は避難したくても自力で困難な住民の支援である。

珠洲市では、避難所までの距離が遠いため、自力で避難することを諦めた住民がいた。徒歩しか避難手段を持たない住民の安全をいかに確保するか。避難の支援や自宅近くに

時的に避難できる場所を確保するなど、地域ぐるみで考える機会を持つことが大切だ。この問題は、珠洲市に限った問題ではなく、どの地域にも顕在化している問題ではないか。



余震が続く中、珠洲市では損壊した我が家で生活を続けている住民がいる。「家が心配で離れたくない」「ここ以外行くところがない」などそれぞれの事情がある。住み慣れたわが家で暮らしたいと思うのは当然のことだ。いっぽう、大きな揺れは明日来るかもしれない。それゆえ避難行動要支援者支援の関係づくり

は待ったなしだ。度重なる揺れを被ってきた建物の中には、小さな揺れでもダメージを受ける建物があるかもしれない。まずは耐震診断を受けてほしい。行政には改修工事の補助率を上げるなど、耐震改修を促す策を押し進め「ここで暮らし続けたい」という住民の希望に寄り添った手厚い支援を押し進めてもらいたい。

会員生協では能登地震の支援として義援金の取り組みや被災地のボランティア活動に参加しました。また、石川県勤労者共済生協では被災地での訪問活動を行っています。

ボランティアに参加して

コープいしかわ 三宅 知江

片付けなどの依頼をされた珠洲市正院町のお宅では家具や生活用品などで廃棄するものを確認しながら家の中から運び出す作業をしました。

家の中は大きな柱が傾き、サッシの窓が全て外れて割れ、ブルーシートが張ってある状態でした。依頼された方は「以前の大きな地震の時にも被害が出て、その時に思い切った大きな費用を掛け基礎から補強をしたので、もう一生大丈夫だと思っていたのに、これからどうしていけばいい

か分からない」と落胆のご様子でした。不安な気持ちでいっぱいな中で



5月27日(土)と6月10日(土)の2日間、コープいしかわ役職員のべ24名が参加

「コープいしかわの皆さんは本当に親切ですごいね」と何度もおっしゃって、ボランティアの私たちを気遣っていただき胸がいっぱいになりました。今後も、ボランティアや募金などできる形で被災地の支援ができればと思います。

能登地震の訪問活動について

石川県勤労者共済生協 赤松 智代

石川県能登地方を震源とする地震により被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復興がなされますことを心よりお祈り申し上げます。

こくみん共済coopは、能登地震で住宅被害に遭われた組合員の皆さま

まを訪問し、被害調査を行っています。役職員が訪問させていただいた珠洲市の組合員の方々のお宅は、一見被害が大きくなさそうでも中に入ると家中の壁にひび割れや隙間が生じており、大地震の衝撃が伝わりました。

自宅の修理の手配や今後の生活の不安が大きい中、皆さんが自分ごとより被害が大きかった方の心配をされており、共助意識の高さに感銘を受けました。

日本各地で相次ぐ地震や自然災害に対し、最適な保障の提案とともに、被害に遭われた組合員に寄り添い、丁寧な対応で生活再建に貢献できるように努めてまいります。



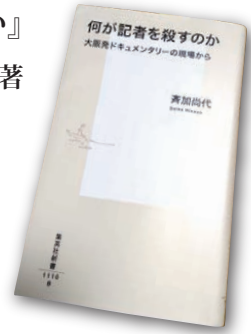
県生協連活動日誌

- 4 ● 4月 5日 第5回三役会▶Web会議
 - 4月 5日 関西地連 第5回運営委員会▶Web会議
 - 4月 6日 いしかわフードバンク・ネット運営委員会
▶フレンドパーク石川
 - 4月 7日 反核・平和おりづる市民のつどい第1回実行委員会
▶Web会議
 - 4月11日 石川県消費者大会第1回実行委員会▶Web会議
 - 4月18日 消費者支援ネットワークいしかわ第1回理事会
▶金沢市青少年交流センター
 - 4月19日 協同組合学習交流会第1回準備会▶石川県農業会館
 - 4月25日 いしかわフードバンク・ネット第1回理事会
▶石川県社会福祉協議会
 - 4月26日 第3回監事会▶古府センター会議室
 - 4月28日 役員推薦委員会▶生協連事務所
-
- 5 ● 5月 1日 石川県統一メーデー▶いしかわ四高記念公園
 - 5月 9日 労福協第1回理事会▶フレンドパーク石川
 - 5月10日 消費者月間行事パネル展示▶石川県庁19階展望ロビー
 - 5月10日 第6回理事会▶石川県地場産業振興センター
 - 5月12日 東海北陸生協県連協議会(愛知・欠席)
 - 5月18日 非常用通信機器(MCA無線)訓練
 - 5月19日 第1回広報委員会▶Web会議
 - 5月19日 石川県防災総合訓練第1回打合せ会議▶Web会議
 - 5月20日 第10回消費者支援ネットワークいしかわ総会
▶石川県女性センター
 - 5月21日 第11回はだしのゲンをひろめる会総会
▶金沢市近江町交流プラザ
 - 5月22日 第5回いしかわフードバンク・ネット総会
▶金沢市松ヶ枝福祉会館
 - 5月24日 第1回企画運営委員会▶Web会議
-
- 6 ● 6月 2日 石川県農業活性化協議会▶石川県農業会館
 - 6月 7日 第6回三役会▶生協連事務所
 - 6月 8日 いしかわフードバンク・ネット運営委員会
▶フレンドパーク石川
 - 6月15日 第2回協同組合学習交流会準備会▶石川県水産会館
 - 6月16日 日本生協連第73回通常総会
▶東京 品川プリンスホテル
 - 6月19日 生協連第58回通常総会、第1回理事会、第1回監事会
▶石川県地場産業振興センター
 - 6月20日 消費者支援ネットワークいしかわ第2回理事会
▶金沢市青少年交流センター
 - 6月23日 労福協創立60周年記念式典、第62回通常総会
▶フレンドパーク石川
 - 6月26日 北陸ろうきん第22回通常総会▶石川県立音楽堂
 - 6月27日 第2回企画運営委員会▶Web会議
 - 6月28日 第2回反核平和おりづる市民のつどい実行委員会
▶Web会議
 - 6月29日 いしかわ環境パートナーシップ県民会議第65回総会
▶石川県地場産業振興センター
-
- 7 ● 7月 3日 いしかわ食育推進会議▶石川県庁会議室
 - 7月 5日 第2回理事会▶Web会議
 - 7月11日 石川県消費者大会第2回実行委員会▶Web会議
 - 7月11日 石川県食肉公正取引協議会総会
▶ANAホリデイ・イン金沢スカイ
 - 7月12日 生協連役員歓送迎会▶よし久
 - 7月19日 第3回反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会
▶石川県庁19階展望ロビー
 - 7月27日 関西地連運営委員会、県連活動推進会議▶Web会議
 - 7月27日 石川県防災総合訓練第2回打ち合わせ会議
▶石川県地場産業振興センター

私のおススメの一冊

『何が記者を殺すのか』

齊加 尚代 著



読書感想文?「若いころは読書が趣味です、と恥ずかしくもなく言って、登下校のバスの中や、時間待ちの間に活字を読み漁っていた。」と家族に話したら「えっ、本当」と息子たち。

近頃は活字1行で目がしょぼしょぼになり、そのあとは意識不明の重体。これも我が家の息子たちの反応。それでも以前に読んだものでもいいと寄稿依頼。(本棚にはそれなりにある書物の内容は記憶のかなた。)

直近でと言っても昨年、一気に読んだ、齊加尚代さんの「何が記者を殺すのか」講演も聞いて深く納得した一冊があります。

沖縄の基地の問題や教科書問題、ネット上のバッシング、差別問題に正面から取り組んだドキュメンタリー番組の舞台裏が明かされています。番組の表面だけでは伝わり切れない奮戦記です。真実を伝えない、日本のマスコミ、ジャーナリズムの中にあって可能性をあきらめず苦闘し、偏ることなく真実を追い求める奮戦記は心強く胸を打つものでした。

権力を持つものがこのように世論操作をし、事実を捻じ曲げ隠ぺいするのかと唸った映画「新聞記者」。一人一人が自分のメディアと拡声器を持つネット社会の中で誹謗中傷が真実ようになっていく恐ろしさ、洪水のように流れる報道の何が真実で偽りか見極める国民の目と、耳、後悔のない判断が求められていることを強く感じました。

金沢医療生活協同組合 理事長 近松美喜子

編集後記

「枯れ木の賑わいの的な」広報委員としては生協連だよりの編集後記は荷が重い。身近なテーマにさせて頂いた。地域のミニコミ誌を通じて金大写真部学生と協力関係にある。最近では原稿がメールで写真はグーグルにアップロードとなる。学生は本を読まないと言われるがオンラインの文字情報は洪水のごとく日々受けている。ミニコミ誌に、これを危惧しているアンデシュ・ハンセン「スマホ脳」を「学生に薦めたい本」として推薦した。スマホの弊害対策は「毎日の軽い運動」とある。学生に広めたいと思う。

生協連だより広報委員 金大生協 横川 勝巳